

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	業務中心になりがちな時にも、理念を思い起こし、ケアを中心にできるよう心掛けたい。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	○	行事等に対する家族の関心に差があるため、通信なども発行できたらと考えている。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	施設での介護を通して学んだことを伝えるように心掛けている。状況に応じた相談窓口等も紹介している。	○	独居高齢者との交流を深めたり、介護している。家族に認知症の症状を知って頂き、対応についても伝えていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価により取り組みたい内容が具体化してくる。外部評価により、客観的に評価してもらえるため、改善に取り組むことができる。	○	職員に自己評価の内容を伝え、外部評価を実施する意義について理解できるよう勉強会で伝える。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事への参加や見学会を通し、日常生活を知って頂く機会を設けている。質問に答え、意見は活かせるよう努めている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域ケア会議に定期的に参加し、サービスの質の向上に取り組んでいる。	○	市町村担当者と、サービスの質の向上について率直に話し合えるような関係を築いていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	学ぶ機会が少なく、活用できるよう支援することは難しい。	○	研修を受け、学んだことを必要な人に伝え、活用できるよう支援したいと考えている。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に対する意識を高めるよう、ミーティングの中で話し合っている。入居者の全身症状を常に把握し、変化時は原因を知るようにしている。	○	高齢者虐待防止関連法について、正しい知識を身に付けたいと考えている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	よく説明し、納得をして頂いた上でサイン、押印を頂いている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見は傾聴しているが、運営に関してはほとんどない。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時に報告したり、電話や手紙にて状況を伝えている。	○ 家族により報告して欲しいことに違いがあるため、個々にあわせた方法で報告できるようにしたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見はあるが、不満・苦情は現在のところほとんどない。あれば、運営に反映できるよう心掛ける。	○ 意見だけでなく、不満・苦情を言って頂けるような関係を築きたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	一日3回のミーティングの中で常に意見や提案があれば傾聴している。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	常に経営者が事務所におり、要望に応じられるよう努めている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が明るく、楽しく働けるよう配慮している。また、それが入居者に接する態度やケアに繋がると考え、重く受けとめている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の教育の向上を目指し、研修会にできる限り参加するよう図っている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議を通して交流はあるが、サービスの質を向上させていく取り組みまでに至っていない。	○ サービスの質を向上させていく取り組みに繋がる活動の機会を持ちたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	食事会や屋外でのバーベキュー等を行っている。	○ 定期的に行ない、楽しく働けるよう環境作りに努めたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	全体的に一生懸命働いているので、感謝の気持ちはメッセージや声かけで行なっている。勤務は本人の希望を優先している。	○ 個人的に時間をとり、意見や要望を傾聴したいと考えている。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用に至るまでに、本人自身から話を聴くことは難しい。ほとんどが家族・親族の希望で入所。	○ 本人自身から聴く機会をつくりたいと考えている。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の思いを傾聴し、安心して頂けるよう、受けとめる努力をしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の気持ちを考慮し、その人にとって今一番必要なサービスをすすめている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	その人の状態により、面会の頻度や外出等、家族と相談しながら徐々に馴染めるようにしている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	自尊心が保てるよう、役割を持ち、得意なことを活かせる環境づくりをしている。共に家事をしたり、生活できていることの喜びや感謝を伝えるよう心がけている。	○	個々の生活歴や人格を尊重し、思いやりを示し、信頼関係を築けるよう努力したい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族としての思いや抱えている問題を傾聴し、理解を深め一緒に支えるよう努力している。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	以前からの関係性を知り、理解することにより、今のよりよい関係について考え、温かい関係が築けるよう支援したい。	○	以前のことよりも、今の状況を知り、よりよい関係になれるような情報を提供したい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人等馴染みの人の訪問を歓迎し、また来たいと思えるような家庭的な雰囲気を大切にしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ホールでの席の配置に気を配り、居室移動の際も孤立しないよう配慮している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所しても、御見舞、葬儀に参列したり、新盆見舞にも伺っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	食事の仕方や、衣類・居室の整理等、その人なりの方法を大切にしている。職員の価値観を持ち込まないよう注意している。	○	寛大な気持ちで、ありのままを受け入れられるよう努力している。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に生活歴を書いて頂き、また口頭にて詳しく聞くよう努めている。ホームでの生活を観察し、改めて家族やケアマネージャー等から情報を得て把握している。	○	生活歴や生活環境をさまざまな角度から知り、その人らしい生活スタイルを認め、大切にしたいと考えている。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	朝、夕のバイタルチェック、一日3回のミーティング、日々の記録を通し、現状を総合的に把握できるよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	生活歴や日常の言動やしぐさを観察し、その人らしさや本人の望むケアを導き出している。家族の希望も踏まえ、作成し、職員間で情報を共有している。	○	その人を知るために観察し、意味づけをしてカンファレンスに望んでいる。回を重ね、職員それぞれが向上し、より良いチームでの介護ができるように努力していきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	心身の変化は、ミーティングの中で伝え、変化が生じた場合は、検討し、新たな計画を作成している。毎月、介護計画を検討し、現状に即した介護計画に変更している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	午前、午後、夜間で一日の生活の様子を記録している。変化が生じた場合、業務日誌に記入し、個々の活動内容に記入している。勤務に入る前に、目を通し、確認するように心掛けている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院や買い物、衣類・寝具の管理等、状況に応じ、柔軟な支援に努めている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアの受け入れも積極的に行ない、民生委員とも友好的な関係が築けている。消防署の協力にて避難訓練を実施している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要性が生じた場合は、本人や家族の意向に合わせ支援したい。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要性に応じ、協働したい。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医との関係を大切にしつつ、病状の変化により、適切な医療や緊急時に対応してもらえるよう支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入室する際には声をかけたり、居室整備時も了解を得るようにしている。記録の管理に気を配り、固有名詞を用いないよう注意している。	○ 記録の書き方を統一し、尊厳を保持できるような表現を用いることができるよう、勉強会を再度実施したい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	選択肢を設け、ゆっくりと自己決定を待つようにしている。視力、聴力の障害に合わせ、状況を説明したり、筆談を用いたりしている。	○ 遠慮なく、意思が表出できるような信頼関係を築き、どんな決定も否定しないで受け入れるよう努力したい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の決まりや都合は後回しにできるが、その人のその時の希望には、すぐに応じる必要があることを常に念頭におき、支援している。	○ 希望を表現できない人にも心を寄せ、一人ひとりのペースを大切にしたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	入浴日には、着たいものを準備して頂き、季節に合わせた服装やふさわしい髪型が保てるよう支援している。望む店がある人は家族と行って頂く。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえ、盛りつけ、食器拭き、エプロン洗い等、一人ひとり得意分野で力を活かし、職員と会話し、共に楽しみながら行なっている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	10時、3時のお茶時には、何が飲みたいかを聞き、好みのものを飲んで頂いている。おやつも何種類かの中から選ぶということが楽しめるようにしている。	○ ミキサー食のおやつも、見た目でも、楽しめるよう工夫していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄のパターンに合わせ、トイレ誘導の時間や回数を考え、パットの当て方も工夫している。排便チェック表を用い、便秘や下痢に注意し、飲食物の調整、腹部マッサージ等をこなしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は火曜日と金曜日と決めているが、その日の体調や精神状態に合わせて、無理強いせず、一人ひとりのタイミングを待つようにしている。	○	誘導、着脱、洗身、洗髪等すべての面で、職員がゆったりと関わり、満足感のある入浴にしたいと考えている。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	自由な時間に自室にて休息がとれるようにしている。午睡したいかどうかを尋ね、その日の希望に合わせて支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職業や特技、趣味等から喜びのあることをして頂き、その人だけの役割とすることにより、張り合いがあるようにしている。	○	その人に合った気晴らしを探したり、表現できるような機会を多く持ち、心から喜べるような活動をしたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望に応じ、自室で管理している人や、預かってもらう方が安心と思える人からは、預かっている。買い物時は、自分の財布を持って行くようにしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の希望のすべてにそうというのは難しいが、体調や季節に合わせて、戸外に出られるような努力はしている。	○	偏りなく希望が主張できる人に対しても外出支援したい。外出できる体制を整え、事故を恐れすぎず、共に楽しめるようにしたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	車椅子の人が、家族と外食する時など、ホームの車で送迎している。毎年、創立記念日には、入居者全員が家族、地域の人、職員と共に外食する機会を設けている。	○	どこに行ったら良いのかわからない、入居者や家族が多いため、職員から働きかけたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙は本人に渡し、電話がかかってきた時は取り次いでいる。自ら手紙を書ける人はいないが、電話をかけたい人には支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家庭的な雰囲気の中で、お茶を入れ、ゆっくりして頂けるよう配慮し、帰りには再来してもらえるような声かけをしている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	カンファレンスやミーティング等で、拘束しないケアについては話し合っているが、命の危険がある場合には、最小限に行なっている。	○	禁止の対象になる具体的な行為を学び、全ての職員が理解し、実践できるようにしたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室に鍵をかけることはないが、玄関を常にとというのは、難しく課題である。見守りができる時は長時間開けておくよう努力している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	入居者全員の所在や様子を常に確認し、安全であるか、気を配っている。自由を制限することがない安全な環境作りをしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	管理できる力に応じ、所持しているが、状態の変化に合わせて危険がないよう気を配っている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	勉強会にて知識を学び、状態に応じた起こり得る事故を思いに留め注意している。ヒヤリ・ハットを書くことにより、事故を振り返り、再発防止に取り組んでいる。	○	職員の事故に対する意識の差をなくし、事故防止に努めたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署での講習会に職員全員が参加している。定期的に勉強会を行ない、看護師より応急手当の方法を学んでいる。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力にて、年2回火災による避難訓練は実施している。訓練の際には地域の人にも声をかけている。	○	地震や水害の際の避難方法も身につけておきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入所時に説明し、体調や認知症進行による状態の変化についても、その都度、家族に伝えている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	朝、夕にバイタルチェックをし、記録しているため、長期的な変化や正常時との違いがわかる。異変に気付いた際には、報告し、速やかに受診している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬専用ファイルにて、入居者全員の服薬の目的、副作用等が確認できるようにしている。症状の変化が見られた時は、受診し服薬について医師に相談している。	○	薬ノートを活用し、現在服用している薬が一目で確認できるよう作成中。個人ファイルに在中し、緊急時に役立てたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日、朝食時にヨーグルトを付けている、水分摂取量を観察し、好みの飲み物にしたり、食事に汁物を付けるなどして、水分を補っている。共に体操を楽しむようにしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	歯磨きが習慣になるよう声かけをし、見守りにてできるよう働きかけている。できない人には入れ歯洗浄、うがいを促し、口腔内に食物が残っていないよう、綿棒を用いるなど工夫している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	残歯や栄養状態により、きざみ食やミキサー食にし、栄養摂取できるよう工夫している。1日の水分摂取量が決まっている人には、コップに目盛りを付け統一できるようにしている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザの予防接種はできる限り、早めに、職員・入居者全員が受けるようにしている。ノロウイルス等流行時には、感染症マニュアルに基づき予防に努めている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具は定期的にハイターにて除菌し、布巾は日光消毒をしている。買い置きせず、その都度買い物に行き調理している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	近隣の住宅に溶け込めるように、一般家庭と同じような雰囲気作りをしている。玄関に花を置いたり、ドアも家庭的なものにし、安心して立ち寄ってもらえるようにしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所からは調理する音や匂いを感じられるよう心掛け、会話に繋げている。トイレやホールに季節の花を飾り、四季を感じるようにしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関の長椅子にて独りになったり、気の合った人同士で会話ができるようにしている。ホールのソファはくつろげる居場所となっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に、使い慣れた寝具や馴染みのものを持って来て頂くよう説明している。ベット使用が難しい人には、畳部屋にし、布団を敷く習慣を大切にしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	気温に応じ、窓を開け換気している。ホールのファンを常に回し、調整することにより空気がよどまないよう工夫している。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身体機能の変化に合わせ、居室移動を行ない、自立した生活が送れるようにしている。必要に応じ手すりを付けるなどし、安全に心掛けている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	わかる力を共有し、ゆっくり口頭で伝えたり、筆談やジャスチャーを用い、意思疎通を図るようにしている。待つことにより混乱を防いでいる。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関の花を見たり、裏庭の草むしりを職員と一緒にするなどしている。ベランダで洗濯物を干すことも役割として喜びである。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

認知症について、職員全員が詳しく学ぶ機会を持ち、理解を深め、専門職として、その人らしさを尊重するケアを行うことができるよう努力している。認知症を抱えながら、今を生きている人、一人ひとりの言動・行動すべてに意味があると捉えている。カンファレンスにて生活歴や性格傾向、認知症の進行等、情報を共有し、意味を探り、どんなケアを望んでいるのかを検討している。そしてケアの方向を導き出し、ケアプランを立案している。そのプランを実践することにより、ケアを統一でき、その人が尊厳を保ちながら生活することをチームとして支えることができるよう努めている。職員も人としての環境として「ゆったり、一緒に、楽しく、豊かに」を理念とし、パーソン・センタード・ケアを目指し、安心できる生活環境作りし、ありのままを支えて行きたいと考えている。